

平成30年度 事務事業評価表

事業No. 158

記入日 令和 1 年 8 月 28 日
 記入者 氏名 八鈞直己

1 事務事業の位置付け <Plan ①>

重点	事務事業名	担当課室名	新規・継続	事業開始年度	完了(予定)年度	事業区分
-	地域公共交通活性化事業	総合政策課 (地域政策室)	- 新規 ○ 継続	平成 21 年度	令和 年度	ソフト事業(任意)
まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置付け			第4次総合計画 施策の大綱の位置付け			
基本目標	基本目標Ⅱ 地域の中で安心して暮らし続けることができるまちづくり	政 策	政策3. 安全安心で快適なまちづくり			
講ずべき施策	①みんなで支え合い安心して暮らせる地域社会の形成	基本施策	基本施策2. 生活基盤の充実した快適で住みよいまちづくり			
主要な取り組み	スマイルバスの利便性の向上、近隣町村との連携、デマンド型乗合タクシー拡充	施 策	施策3. 利便性の高い公共交通システムの構築			

2 事務事業の概要 <Plan ②>

対 象 (誰・何を対象として)	・自動車を運転できない、身近に自動車で送迎してもらえる人がいないなど、外出の際に公共交通を必要としている人・住民
意 図 (対象をどのような状態にしたいのか)	・コストの最適化を図り、持続可能な交通システムを確立し、日常生活に不可欠な活動(食料品や日用品の買い物、定期的な通院など)ができるようにする。
手 段 (対象を意図する状態にするため、どんな業務・活動をしたか)	・住民や利用者のニーズと利用状況を把握し、適正なダイヤ改正を行う。・利用率の少ない路線について、車両スペースの最適化、又は路線の廃止を行う。・小中学生のスクールバスと合わせて運行し、運行の効率化を図る。・各協議会の開催内容について、町HPで公表する。・観光利用など、新たな活用方を検討推進する。・必要に応じ、吉野町地域交通協議会を開催する。
役割分担 (まちづくり基本条例に基づき、個人、地域とどのような役割分担をして事業推進したか)	個人レベル 自分達のコミバスという認識と愛着を持って利活用いただいています。 町内会レベル ダイアやバス停の変更など、地域内の意見を集約いただいています。 自治協レベル 地域住民のニーズにあったバス運行を実施するため、懇話会などで意見をいただいています。

3 年度別計画と事業費 <Do ①>

		事業期間：平成 28 年度 ~ 令和 年度					
		単位	H28 (決算)	H29 (決算)	H30 (決算)	H31 (予算)	R2 (見込)
総費用			44,646	49,491	50,312	56,403	50,961
費用内訳	直接事業費	千円	39,895	44,806	46,600	52,691	47,249
	人件費		4,751	4,685	3,712	3,712	3,712
	(関与人数)	人	0.60	0.60	0.50	0.50	0.50
財源内訳	特定財源						
	国・県支出金		4,981	4,572	3,785	7,520	2,887
	地方債	千円	30,400	35,500	34,400	33,000	33,000
	その他		4,286	4,482	4,460	3,900	3,900
	一般財源		4,979	4,937	3,955	11,983	11,174
指標1単位あたり費用	関連事業費①	千円	44,646	49,491	50,312	56,595	51,153
	指標値②(年間総利用者数)	人	23,489	26,932	26,634	22,700	22,600
	①÷②	千円	1.90	1.84	1.89	2.49	2.26
全体計画	車を運転できない人が気軽に外出することのできる交通環境を創り、町内の交流を活性化することを目指している。公共交通サービスを継続して提供していくことが必要であり、利用の動向を見極め、限られた財源の中でより効率的な運行を常に行うことが重要な課題である。	吉野川左岸からゆうゆうバスへの接続検討/ダイヤ検索システムの検討/吉野町地域交通協議会開催	左岸からゆうゆうバスへの接続実施/検索システム検討結果により導入/吉野町地域交通協議会開催	ニーズと利用状況を把握し、適正なダイヤ改正を行う/吉野町地域交通協議会開催/交通網形成計画策定	ニーズと利用状況を把握し、適正なダイヤ改正を行う/吉野町地域交通協議会開催		

4 事業の評価指標 <Do ②>

(上段:目標、下段:実績)

指標名	単位	基準値 H27年度	H28	H29	H30	H31	R2
スマイルバス運行に係る改善改革数	回	3	2	2	2	2	2
			2	2	2	2	1
人口一人当たりの利用回数	人	2.82	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00
			3.15	3.64	3.70		
年間総利用者数	人	22,348	23,000	22,900	22,800	22,700	22,600
			23,489	26,932	26,634		

5 事務事業の事後評価 <Check>

評価の視点	項目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定
妥当性	継続実施の必要性 (事業廃止による影響はあるか、事業の緊急性や町民のニーズはあるか。)	- 妥当である ○ 検討の余地がややある ○ 検討の余地が多い	2
	町関与の妥当性 (町が主体で取組むべき事業か。)	○ 妥当である ○ 検討の余地がややある ○ 検討の余地が多い	2
	役割分担の適切性 (「個人」「地域：町内会自治会レベル」「地域：自治協議会レベル」が担える部分はないか)	○ 適切である ○ 検討の余地がややある ○ 検討の余地が多い	2
有効性	目標・意図の達成度 (評価指標目標値やサービス水準の妥当性を勘案し、意図をどの程度達成しているか。)	○ 目標を達成している ○ 目標をやや下回った ○ 目標を大きく下回った	2
	手段の有効性 (現状の手段が最も有効か、他の手段により更に成果向上が図れないか)	○ 適切である ○ 改善の余地がややある ○ 改善の余地が多い	2
	他団体との連携 (国・県・他市町村、企業、団体等との連携、活用により更に成果向上が図れないか)	○ 適切である ○ 改善の余地がややある ○ 改善の余地が多い	2
効率性	業務の効率化 (業務手順、内容に見直し余地はないか)	○ 適切である ○ 改善の余地がややある ○ 改善の余地が多い	2
	投入コストの適切性 (投入するコスト(予算・人件費)は適正か、削減の余地はないか)	○ 適切である ○ 改善の余地がややある ○ 改善の余地が多い	2
	財源の確保 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	- 適切である ○ 改善の余地がややある ○ 改善の余地が多い	2

6 改善及び事務事業の方向性 <Action>

評価者 課室長氏名 吉村直樹

総合評価と今後の方向性	妥当性				業務改善についての今後の方向性		
		0点	1点	2点	3点		
	有効性	いずれか0点	D	C	C	C	・H29.4~ゆうゆうバスの南奈良総合医療センターへのスマイルバスからの接続として運行計画を見直し、各方面からの接続できるよう利便性を図った。 ・公共交通サービスが提供されていない国栖鈴の音橋西詰周辺地域へのデマンド運行を実施したが、2019.1.25デマンド運行委託業者廃業によりデマンド運行廃止。 ・中長期的には、小中一貫校の開校、ワールドマスターズの開催、吉野山など観光客向けの二次交通の対応もあり、令和元年度において「地域公共交通網形成計画」の策定にあたります。 ・住民の利便性を向上させるため、各方面からの要望を精査し、地域公共交通協議会に諮り、改善を図っていきます。また公共交通は広域的な連携が必要であり、奈良県地域交通改善協議会南部地域部会路線別検討会議や南部地域公共交通活性化協議会の場で調整していきます。
	効率性	いずれか1点	C	C	C	C	
・	合計4点	C	C	B	B		
・	合計5点	C	B	B	A		
・	合計6点	C	B	A	A		
B 課題が少しあり業務の一部見直しが必要							
前年度評価		B		前々年度評価		B	
成果	投入コスト				成果の方向性		コストの方向性(関与人件費合)
		皆減	縮小	維持	拡大		
	向上		C	B	A	高齢化が進中地域の移動手段として重要な事業である。近隣町村との連携を継続すると共に、移動ニーズに応じた改善を繰り返しながら、各指標の目標値を維持すること。	有効性、効率性のいずれの視点からも現状維持が妥当であり、現状維持とするが、デマンド型乗合タクシーに移行する計画は断念せざるを得ない。また、今後、国庫補助金の減額が予測されるなか、委託料等の費用試算と効果の検証を進めること。
	維持		E	D			
縮小		F					
休廃止	G						
B		成果向上・費用維持		生産性向上		前年施策評価方針	D 成果・費用とも維持